

在京白聖會報

第20号

平成18年3月25日

発行

在京白聖会
(事務局)

〒105-0003 東京都港区

西新橋1-17-11

リパティ11ビル 8F

玉澤健児税理士事務所 内

TEL&FAX.03-3501-1391(直通)

<http://www.hakua.sokei.co.jp/index.htm>

在京白聖會

5月13日(土)アルカディア市ヶ谷で開催 「地ビールの試飲会」「ミニライブ」など盛り沢山

日時.. 5月13日(土) 講演会16時~、総会17時30分~
場所.. アルカディア市ヶ谷 (私学会館)
会費.. 一〇,〇〇〇円(年会費二,〇〇〇円を含む)
学生・院生 三,〇〇〇円(同右)

「さつぱり在京白聖会に出て来ねで、今度の幹事は大丈夫か?」と事務局や先輩方に心配をおかけしました昭和49年卒が、今年の総会を担当させてい

ただきます。汚名をそぐべく、在京はもちろん各地の同級生と共に準備を進めております。ご期待ください。

第一部の講演会では、活断層

●会場●
アルカディア市ヶ谷
(私学会館)
千代田区九段北4-2-25
03-3261-9921

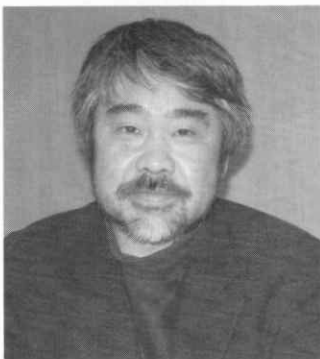


そして第二部は、豪華三本立ての企画で皆さんをお待ちします。まずは試飲会です。岩泉町泉金酒造(八重樫社長:49年卒)の協力のもと

講師とテーマのご紹介

演題「切迫している? 首都圏の地震」

(講師) 佐藤 比呂志 (49卒)



佐藤君は、東北大学大学院理学研究科博士過程終了後、平成3年から東京大学地震研究所に移り、現在同研究所教授をされています。同君は、阪神淡路大震災で話題になった活断層についての研究を進めてきました。昨年の中越地震などの報道でも

テレビや雑誌に取り上げられています。最近、東京などの大都市の地殻構造を研究するプロジェクトのリーダーとして、将来発生する大地震についての研究を進めています。3千万人を越える人口を有する首都圏は、フィリピン海・太平洋プレートという2つのプレートが沈み込む特異な場所に位置し、世界でも最も地震被害のリスクの大きな地域になっています。こうした背景から、近年、地震研究所は首都圏で大規模な地下構造探査を進めてきました。これらの成果から明らかになってきた首都圏での地震が発生するメカニズム、地震の特徴、切迫性についてお話しいただき、地震に対する理解を深めていただきたいと思います。

と、岩手の地酒十数種類と盛岡ベアレン醸造所(木村社長:61年卒)の地ビールをご用意させていただきます。この機会に故郷の隠れた銘酒をぜひご堪能ください。また利き酒会も予定しています。



昭和31年卒の皆さん

として独自のスタンスでの活動が続いている高橋研君(49年卒)のミニライブです。アコースティックギターの響きにしばし目を閉じ、懐かしい青春への想いを馳せてみましょう。さらにご歓談の合間に、わが校、硬式野球部の甲子園の

お願い

会費未納の方は、同封の振替用紙で会費二,〇〇〇円を振込み願います。

出欠は同封のハガキで4月25日までにご連絡ください。利き酒会参加ご希望の方も併せてご連絡いただければ幸いです。(なお希望者多数の場合は、幹事の方で参加者を決定させていただきますので、予めご了承ください)(49年卒)

映像を大画面にてお楽しみいただく予定です。今年の開催日は5月13日。まさに創立記念日です。今までなかなか都合がつかなかった方も、ぜひ今年はお出願ください。多数のご参加を心からお待ちしております。



及川前会長(中央)から新役員の紹介が行われた

新役員のご紹介

在京白聖会は、昨年総会後から、役員が新体制になりました。改めまして、新体制の会長及び副会長(3名)のメッセージをご紹介します。なお、人事一心に伴い、及川昭伍・前会長(S25卒)が顧問に、八重畑達男氏(S18卒)、松橋輝男氏(S25卒)、大平洋司氏(S26卒・元副会長)、外山浩子氏(S32卒・前副会長)が参事になりました。また、馬場信・前事務局長の会長就任に伴い、新事務局長に玉澤健児氏(S43卒)、事務局次長に大澤邦雄氏(S43卒)、水原滋氏(S50卒)が就任しました。

在京白聖会会長就任にあたって

馬場 信 (S41卒)

昨年の総会で会長に選任されました。

早いもので一年近くにもなつてまいりましたが、この機会に就任のご挨拶を申し述べさせていただきます。

前任の及川昭伍会長(S25卒)より引き継ぎましたが、浅学非才であることはもとより、及川さんに比べ一回り以上も年齢差がありましたし、ここまで若返るのもいかなものかと、固辞してまいったのですが、重なる



馬場 信 会長

ご要請に私でお役に立てるものならばとお引き受けさせていたきました。

確かに、会長就任直前まで事務局長として五年間にわたり及川会長のもとで事務処理にあたつてまいりましたから、会務についてはある程度通じており、そう言った意味でご指名をいただいたものと存じます。

事務局長を仰せつかった際に、及川会長から「事務局機能を強化し、財務の健全化を図って欲しい」というようなことをご下命いただきました。

幸い、会報の内容充実やホームページの開設などによる広報活動の充実、若手会員の組織化による会勢の拡大、会員名簿の電子化による会員異動の把握などが図られ、会費納入会員の大幅増加によって財務の健全化も

達成することができました。

これも、渉外担当・白石源次郎(S41卒)、広報担当・山田武秋(S42卒)、名簿担当・船越巧子(S42卒)、組織担当・岩澤新治(S45卒)、HP担当・水原滋(S50卒)の各氏に事務局次長として支えていただいたおかげであり、また、多くの会員の皆さんのご協力のためものと改めて感謝申し上げます。

ところで、在京白聖会活動に直接携われるようになって痛感したことがいくつかございます。

それは、在京白聖会とは、実に多彩な人材で構成されているのだなということ、また、同窓の絆が強いということ、そして、会の雰囲気明るく開放的だということ。これも、在京白聖会三十七年の伝統でしょうし、何よりも各卒業年次単位で積み上げている組織の強さがあると云うことでしょうか。

会長就任にあたって、それなりの抱負は持つものの、さしたるアイデアがあるわけでもないのですが、この伝統を守り、在京白聖会のもっている親しみやすさだけは大事にしてゆきたいと肝に銘じておりますし、人と情報がクロスする交流の場というものを構築してゆきたいものだと思っております。

いくつか新しい活動も出てまいりました。ゴルフ大会も三回目数を数えてすっかり定着してま

いりましたし、年次対抗戦はなかなかの熱気もはらむようになっております。

また、ゴルフに続いてクラブ活動として、新たに昨年から女子部がスタートし、五行歌の会も始まりました。

さらに、会員の中には、絵画、彫刻、ピアノ、バイオリン、声楽、書道など実に多彩な芸術家が活躍しておりますが、これら芸術家と交流し支援もできるような芸術クラブのような構想も具体的な行動の段階に入っております。

在京白聖会副会長ごあいさつ

●在京白聖会副会長

土橋とも子 (S28卒)



土橋とも子 副会長

37年前、在京白聖会を創設したその一人だった兄・藤祐正の意志を継ぐ思いからこの大役をお引き受けして2年が過ぎてしまいました。昨年は皆様のご協力で、女子サークルの集まりを開催することができ大変うれしく思います。年齢を重ねるとともに、故郷を同じくする仲間との語らいは、とても幸せを感じ

これからクラブ活動の一層の充実が期待されるところですが、もちろん、クラブ活動はごく限られた少数の会員だけのものではなく、多くの会員の参加を促したいと考えております。

個人情報保護法の施行から会員名簿の取り扱いなど、従来のままの活動とはいかない、なかなか神経質な課題も当面するような時代とはなつてきておりますが、会員の皆さんのご協力をいただいて運営をしてゆきたいと考えておりますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

●在京白聖会副会長

高橋 温 (S35卒)



高橋 温 副会長

るひと時でした。在京白聖会は私たちの人生を豊かにしてくれるものと信じます。よろしくご協力のほどをお願いいたします。

卒業以来四十六年の歳月、母校を訪れる機会もなく馬齢を重ねた。かつて一高で習った「少年老イ易ク学成リ難シ」の戒めは、小生には今更手遅れである

が、若い人にはこの一節は本当のことだよ、と言ってあげたい。母校のことは、普段あまり意識することはないが、決して忘れ得ぬ存在である。これが人々がこだわるルーツというものである。会報、同窓会などで「白聖魂」を目にする時、くじけそうになる心も奮い立つ。

在京白聖会副会長

内村 泰 (S 39卒)



内村 泰 副会長

在京白聖会会員の皆様、いかにお過ごしでしょうか。

平成17年度総会で副会長に推挙されました内村でございます。一年に一回の白聖会の出席とその時歌う校歌は、私には何にも代え難く、どんなに励みになり、勇気を与えてくれたか口では言い表せません。この会のおかげで今日まで頑張れたと思っております。

私が素晴らしいと思っているこの在京白聖会を、若い後輩の皆様にも体現出来るよう、微力ではありますが、馬場信会長を助け頑張つて参ります。

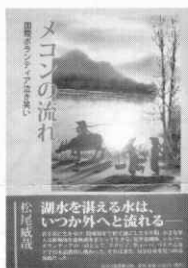
会員の皆様方のお力添えをお願い申し上げます。

(東京農業大学大学院長)

● 会員執筆の書籍紹介

『メコンの流れ』

国際ボランティア泣き笑い
松尾威哉 (S 20卒)



中央公論事業出版刊
2005年5月

サラリーマン生活の卒業となる定年を待つてシルバードランティアの一員に身を投じ、ボリビア、キューバ、ベトナムなどで日本語教育に携わった人生を振り返る。

『盛岡中学生宮沢賢治』

小川達雄 (S 22卒)



共に河出書房新社刊
『盛岡中学生宮沢賢治』
2004年2月、『隣に居た天才』2005年5月

宮沢賢治考のなかでも空白といわれる盛岡中学時代にスポットを当てた。徹底した文献調査による力作。初めの「盛岡中学生宮沢賢治」で中学時代の生活を丹念に追い、続く「隣に居た天才」で豊富なエピソードを膨らまし、臨場感あふれる筆致が魅力。

『映像アラカルト今昔』

石田武久 (S 35卒)



兼六館出版社刊
http://www.kenroku-kan.co.jp/

「10年ひと昔」とよく言われるが、渦中にとあり気がつかない変化も、時を経てあらためて振り返ってみるとその変わりように驚くことが多い。

放送、映画、コンピュータ、インターネットなど様々な技術がどのように生まれ、進歩発展して来たか、またその過程の中で演じられた様々なエピソード、秘話、裏話など40編のエッセイを紹介している。

著者はNHKで主にハイビジョンの研究開発、実用化、番組制作などに従事してきた。

『天地人』

馬場 信 (S 41卒)



産報新書
2005年11月刊

週刊新聞に連載されてきた人気コラムを集めた。専門のこと

のみならず社会時評から読書、旅行へと快筆がさえる。幅広い教養と抑制のきいたユーモアが楽しい。

『がらんどろ』

山田武秋 (S 42卒)



桜出版刊
「五行歌の二十人」所収
2005年12月

「二〇〇五年五行歌の二十人」所収。在京白聖会のクラブにも加えられた五行歌について、第一線で活躍する二十人の歌が収められていて、そのうち、山田の「がらんどろ」では、山田の外見を知る者にとっては想像だにできない、みずみずしい歌が十七編。なお、表紙カバー絵は三浦千波画伯 (S 50卒) が描いている。

『啄木・道造の風かほる盛岡』

山崎益矢 (S 43卒)



文芸社刊
2001年4月

石川啄木や立原道造が生きた時代の風や空気(アトモスフィア)が今も漂っているという盛岡

岡について、啄木や道造が誘う文学散歩。盛岡についてこれほど詳述された案内も少ないのではないかな。

『インターネット長者 大儲けのカラクリ!!』

鈴木忠宏 (S 52卒)



長崎出版刊
2005年1月

ホリエモンの逮捕がいまだに理解できずにいる人は、この本を読めばその大儲けのカラクリがわかるはずだ。その仕組みをマネすれば大儲けできると説くが、薦めているわけではない。マネーゲームに飲み込まれないようにという警鐘の書。

『自彊やまず』(復刻版、非売品)

安藤 厚 岩手県教育委員会 元副委員長 校務

本書は、著者が、盛岡二校、盛岡一校合わせて7年間の校長としての式辞・祝辞・挨拶・寄稿文等をまとめたもの。機知やアイデアに富み、実に含蓄の深い読み物となっている。49年卒は3年間、担任と世界史の授業でお世話になったという。懐かしいエピソードも多数盛り込まれている。(非売品)

母校に啄木歌碑、5月7日除幕式

母校に啄木歌碑が初めて建立されることになりました。歌碑のデザインを手掛けた若松信行氏(S43年卒・盛岡市・若松六本木設計)に、経緯と除幕式の日程をお伺いしました。

〈経緯〉

10年程前、我が母校に賢治の歌碑はあるが、何故啄木の歌碑はないのだろうかという疑問を呈する者がいました。以来母校に啄木の歌碑建立を夢見る仲間、意志が次第に強くなり、2000

6年5月7日、いよいよそれが実現する運びとなりました。遊座昭吾先生の指導を受け、碑に刻まれる一首は、「一握の砂」より「盛岡の中学校のバルコンの手すりにも一度我を寄らしめ」となりました。

歌碑の材料は、歌碑の碑面がインド産の赤御影、下の基壇は通称姫神石(姫神山で取れるゴマ石)と啄木に相応しい石でできています。



Oh, let me lean over the railings
The balcony, once more
My old Morioka Middle School!
Takuboku / Shūmei Mori

〔碑文〕
もりをか ちゆうがくかう
盛岡の中学校の
バルコン
露臺の
欄干に最一度我を倚らしめ

〈除幕式〉

同窓会有志一同、啄木生誕120年、さらに玉山村と盛岡市の合併のこの年にこの歌碑を母校に寄贈できる事を光栄に思っています。

06年5月7日、10:30より盛岡一高正門付近にて除幕式を行う予定です。同窓生や啄木ファンの方々、そして在校生も参加する明るく、やかな式にしたいと考えています。連休帰省の方々の参加大歓迎です。

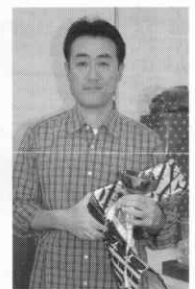
なお、式終了後、校舎にて遊座昭吾先生の「盛岡の中学校のバルコンの……」と題したレクチャーがあります。

●第3回在京白聖会ゴルフ大会 優勝・年次対抗の部は「混成チーム」 個人佐々木秋雄さん(50年卒)

第3回在京白聖会ゴルフ大会が平成17年11月11日、ザ・カントリークラブ グレンモアに8組32名が参加して行われました。



年次優勝した混成チーム
(左から36金山+34田村+38宮+43玉澤の各氏)
※中央は馬場会長



男子個人優勝の
佐々木秋雄氏(50卒)
成績はG96、H22.8

結果は年次対抗は混成チーム(34年卒・田村+36年卒・金山+38年卒・宮+43年卒・玉澤)、準優勝は30年B(松本+大沼+杉測)。男子個人優勝は50年卒・佐々木秋雄。女子個人優勝は34年卒・田村紀子。(敬称略)

白聖五行歌会

昨年11月に発足した白聖五行歌会は、毎月第2金曜日午後6時30分から秋葉原で歌会を行っています。参加希望の方は03-3269-3420(42年卒・白聖五行歌会代表)までお気軽にご連絡を。メール sakuraco@leaf.ocn.ne.jp 可。

ニートの
教祖でも
裁きの扉の
向こうには
空が待っている
村井二郎(38年卒)
朝の駅
人が
走る走る
人生という名の電車に
乗り遅れないように
伊奈 裕(38年卒)

ならいのままに
心ときめく
3月
恋を夢見る
わけでもないのに
ろろち(42年卒)
五行歌、
この世には
グチの材料
山程
あるわい
三浦千波(50年卒)

※05年12月～06年3月までの作品から抜粋。作者名はペンネームもあります。

編集後記

今回の会報は、締切り間際に「母校に啄木歌碑建立」のニュースが飛び込んできた。遊座先生からのご一報だった。嬉しそうな弾んだ声だった。白聖関係では初めての発表とのこと。もしかししたら、スクープ?今年も明るいニュースが続くようだ。



秋葉原で毎月開催の「在京白聖五行歌会」に集まったみなさん。歌会は会員の家族、友人の参加もできるオープンな歌会です

45年卒(在京白聖ヨンゴー会)が文集「浩然」を作りました。一応、創刊号ということですが、希望者は同誌編集発行人の岩澤新治さん(45会)までどうぞ。



45年卒 文集「浩然」(創刊号)を発売